

平成27年度 学校教育方針

◆学校教育目標（*学校教育活動は、この目標の具現化のために行う。）

「心豊かに、自ら学び 自ら考える子」の育成
～よりよい自分を求めつづける子どもたち～

◆期待する子ども像

－感動できる子・感謝できる子・時間を大切にできる子・関係を大切にできる子－

◆めざす子ども像

- ① いのちを大切に、よりよい自分を求めつづける子どもたち
- ② しっかり話を聴き、しっかり話せる子
- ③ 整理整頓ができ、自律的で健康な生活がおくれる子
- ④ TPOに応じた挨拶や話し方ができる子
- ⑤ 社会（学校）のきまりを考え、守れる子
- ⑥ 生活面や学習面で、自らを振り返る子
- ⑦ 粘り強く取り組み、困った時にどうすればよいかを考え、実践できる子

◆めざす教職員像

- 子どもの可能性を信じ、学び続ける教職員
- 相手（子ども）の心に寄り添える教職員
- 冷静かつ迅速に対応する教職員
- メリハリがあり、バランス感覚のある教職員
- チームワークで子どもを見守り、育む教職員
- 「めあて」「徹底」「振り返り」

* 「心豊かな」子を育成するために

- (1) TPOを踏まえた挨拶や言葉遣い、ルールやマナー等の理解や、実践につながる指導を行う。
- (2) 校内及び教室美化の意識と清掃活動を徹底して行う。
- (3) よりよく生きる願いを引き出す（内面の表出を重視した）道徳の時間の充実
- (4) 個が生き、個が活かされる学級経営をめざす。学級目標の具現化
- (5) 読書活動の充実（ex:読み聞かせ、全校一斉読書、借りる子を増やす、情報リソースの機能をもつ図書室など）
- (6) 生徒指導（認め合う集団づくり・問題行動の防止・問題行動への対処・関係機関との連携等の充実
- (7) 時刻や時間の大切さを意識させ、見通しをもたせる。
- (8) 深く個（子ども）を見つめ、良さを励ます指導を継続する。

* 「自ら学び自ら考える」子を育成するために

- (1) 一人一人の児童の実態をふまえた教材研究に基づく丁寧な学習指導を行う。
- (2) 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着をめざし、反復学習やプリント学習、家庭学習などを工夫する。
- (3) 言語能力を高め、思考力・判断力・表現力等を高めるためのスキルを徹底して身に付けさせる。（校内研究）
- (4) 「予想する・調べたことと考えたことを区別する」など、問題解決学習の手法を重視する具

体的実践。

- (5) 体験活動を通して学びを深め、振り返らせることを重視する。
- (6) 本時の目標を明確にして(めあての板書)、評価をする。
- (7) 情報機器(PC・iPadなど)を効果的に活用する。
- (8) 調べ学習に対応する図書館機能の充実
- (9) 自発的な児童会活動(教え導く指導と子どもに考えさせる指導)

*めざす子ども像にせまるために

- (1) 人の話をしっかり聴く態度を養う。
- (2) 望ましい基本的生活習慣(食生活・睡眠など)の指導
- (3) 具体的な目標の設定と、目標の達成度についての振り返りの充実
- (4) 集中して、粘り強く取り組む姿勢を養う。
- (5) 運動に親しみ体を鍛えていく習慣と姿勢を養う。(部活動・休み時間の遊びなど)

◇ 学校を核とした開かれた学校づくり 「子どもは地域の宝」

- (1) (生活科・総合的な学習の時間等での)地域人材の育成と活用
- (2) 地域行事への積極的参加
- (3) 学校運営協議会の充実
- (4) 保・幼・小・中の連携

◆本年度の重点

- (1) 研究・授業を核とした学校経営・学級経営
—思考力の育成を踏まえた研究推進(3年次)—
- (2) 積極的な生徒指導や総合育成支援教育
- (3) 組織力の活性化と有機的に結びつく組織の構築と絆ネットワーク
- (4) 家庭学習の充実
- (5) 運動に親しみ体を鍛える習慣づくり

1. 平成27年度 学校経営方針の骨子

本校の強みの一つとして、地域は学校の良き応援団であることが挙げられる。したがって、学校に寄せる期待も大きい。教職員一人一人が、こうした背景を理解した上で、前年度の取組の成果と課題を総括し、共通理解した上で、自らの姿勢や取組の再点検をすることが大切であると考えている。

本年度は、学校教育目標をより具体化するために、サブテーマを設けた。

「『心豊かに、自ら学び 自ら考える子』の育成」を昨年度と同じく学校教育目標とし、サブテーマとして～よりよい自分を求めつづける子どもたち～を掲げた。自分を見つめて、よりよい自分を追求し、夢に向かう豊かな心を育成したいと願っている。

期待する子ども像である「感動できる子・感謝できる子・時間を大切にできる子・関係を大切にできる子」を継承し、めざす子ども像とめざす教職員像を設定した。

人権教育については、集団としての高まりと、その集団の中で個が大切にされ、一人一人の子どもが学習に向かうことができるための学級経営の構築と、想像する力を養うことを重点とする。

また、自分や他者を大切に、互いの関係をよりよいものに構築し、共に高まり合うことをめざすために、これまで同様、「自らを問う(振り返り)」態度を培いたい。

このことは、子どものみならず、教職員や保護者にとっても重要な視点である。そして、子ども

たちに、様々な体験を通して学んだ知識や行動する力、他者を思いやる心を糧に、問題解決力を身に付けさせ、自立する力をはぐくみたい。

学力向上は学校に課せられた責務である。学力の定着は進路保障につながることを教職員で共通認識し、日々の授業改善を進めてきた。その結果、全国学力調査やジョイントプログラムやプレジョイントプログラム、研究会テストでも数値の改善が図られた。また、教職員の学力向上への意識も高まっていると捉えている。

本年度も研究を核とした学校経営を重視し、さらなる高みをめざすとともに、児童の自主性を培うことを重点においた取組を推進していきたい。

2. 学校組織について

- ① 教育活動実践のためには、「健康」と「和」が不可欠である。気付いた人から実践する。
- ② 教職員は、元々専門性がある。奢ってはいけませんが、自信と誇りをもってのぞむこと。
- ③ 子どもにとってよいことであれば、チャレンジする。責任は校長がとる。ただし、報告・連絡・相談は必ず行う。
- ④ 子どもにとってよい先生とは、自分の存在を深く理解し認めてくれる先生。また、自分の知らないことを知っている先生がたくさん学校にいるということが重要である。それぞれの特性を活かすことが大切である。
- ⑤ ビジョンは大切であるが、一つのことを実現するには時間がかかる。10年後に実現するためには、強く願いつづけることが大切である。また、短期・中期の3～5年単位で物事を考えることが大切である。
- ⑥ 「危機感をもつ（切実感）」「問題をさぐる（洞察力）」「手立てを打つ（実践）」の三つ。
- ⑦ まずは企画する。なんでもいいは駄目である。
- ⑧ 話し合いの節目は八月である。ことが進み、時間的にも見直すよい時期である。
- ⑨ 重点とは当たり前のことをするのではない。(ex:基礎基本)
- ⑩ いつ、何をしたかという記録を残す。
- ⑪ できていることに目を向けることも大切である。放っておくということではないが、できていないことに目を向けるときりが無い。
- ⑫ 目標に対して、現状がどうなっているのかをあるがままに捉えることが大切である。目標に向かっていくという実感をもてることが重要である。
- ⑬ 大きく変えるためには、少しずつ変える積み重ねが大切である。(可分法)
- ⑭ 人権教育、普通授業の充実が声高らかに唱える時代ではない。問題はその質である。
- ⑮ 学校評価は、網羅的に評価すると徒労に終わる。重点化することが大切である。
学校評価で最も大切なのは、教職員による評価であり、学校評価の核は授業評価である。外部の方に、学校がやっていることを理解してもらい、何ができるかを考えてもらうことが大切である。
- ⑯ 「自分が深化する」(心が変わる)と現実も変化する。感じ方・受けとめ方・考え方の深化が、現実の変化を生み出す。常に、学習(研鑽)していく姿勢が子どもを生かすことにつながってくる。
- ⑰ そのために教職員自らが「自分を見つめ、振り返る」姿勢を持つことが大切である。

学校教育目標 「心豊かに、自ら学び 自ら考える子」の育成（3年次）
 ～よりよい自分を求めつづける子どもたち～

期待する子ども像： 「感動できる子」「感謝できる子」
 「時間を大切にできる子」「関係を大切にできる子」

<めざす子ども像>

- ・いのちを大切に、よりよい自分を求めつづける子・しっかり話を聴き、しっかり話せる子
- ・整理整頓ができ、自律的で健康な生活がおくれる子 ・TPOに応じた挨拶や話し方ができる子
- ・社会（学校）のきまりを考え、守れる子 ・生活面や学習面で、自らを振り返る子
- ・粘り強く取り組み、困った時にどうすればよいかを考え、実践できる子

<めざす教職員像>

- ・子どもの可能性を信じ、学び続ける教職員 ・相手（子ども）の心に寄り添える教職員
- ・冷静かつ迅速に対応する教職員 ・メリハリがあり、バランス感覚のある教職員
- ・チームワークで子どもを見守り、育む教職員 ・めあて、徹底、振り返り

学校経営方針（本年度の重点）

- (1) 研究・授業を核とした学校経営・学級経営—思考力・判断力・表現力の育成と研究推進—
- (2) 積極的かつ攻めの生徒指導や総合育成支援教育
 - ・生徒指導委員会ケース会議の充実
- (3) 組織力の活性化と有機的に結びつく組織の構築
 - ・主任の活用と～チーム池田東～
- (4) 家庭学習の充実
 - ・家庭学習の在り方についての交流、具体的な学習予定表（仮題）の実践
- (5) 学校を核とした開かれた学校づくり・・・「子どもは地域の宝」
 - ・地域人材の育成と活用、地域行事への積極的参加、学校運営協議会の充実など

児童一人一人の学力・規範意識の向上（合言葉：いのちは一つ かけがえのないもの）

- ・学習規律が確立された学習集団づくり
- ・学級目標の具現化
- ・主体的、自治的、自発的な集団づくり
- ・美しい教室

重点目標
 言語能力の育成
 —思考力・判断力・表現力等の育成—

学習環境の整備

- ・美しい学校
- ・機器や掲示物の整備
- ・言語環境
- ・図書館教育と授業

生徒指導

- ・児童理解
- ・問題状況の把握
- ・報告・相談・連絡
- ・情報交換と共通理解

健康・保健・安全教育

- ・心身の健康、体力の向上
- ・体を鍛える習慣づくり
- ・防災教育など

校内研究

- ・基礎基本の習得と探究
- ・言語能力の育成（思考力等の育成）

人権教育

- ・総合育成支援教育
- ・同和教育
- ・外国人教育
- ・男女平等教育

道徳教育、規範意識の醸成

- ・よりよい人間関係の構築
- ・体験活動を通じた道徳的価値の自覚
- ・情報モラル、情報機器からの危険回避